

畜産試験場だより

No.53

《整いましたぁ》

牛の胃袋とかけて、国会議事の議決と解きます。

其の心は？

どちらもはんすう（反芻、半数）が必要です。畜っちです。

今年の夏は暑かったですね。皆さん、様々な暑熱対策をされたことと思います。やっと暑さも落ち着きましたが、夏バテの被害は、秋口にでてくるといいます。

私たちの健康チェックと併せて、牛たちの反芻チェックを行い、今年の暑さを乗り切ってくれた牛たちのアフターケアをしていきましょう。



CONTENTS

- 1 牛肉のおいしさについて(その2)
- 2 平成22年度豚人工授精技術研修会の開催について
- 3 国内のアニマルウェルフェアの情勢について



牛肉のおいしさ（その2）



牛肉のおいしさについては、畜産試験場だより第47号で、「脂肪の質」が関係しており、オレイン酸などの不飽和脂肪酸の含有量が高いほど脂肪の融点が低くなって口触りが良くなり、風味の良さが出ることが解ってきました。」とお伝えしたところでした。ちなみに、不飽和脂肪酸は、血液中のコレステロールや中性脂肪を減らす働きがあり、血をサラサラにしてくれるなど、私たちの身体にいい仕事をしてくれる物質です。みなさんも聞いたことがあるのではないのでしょうか。

今号では、肥育牛の脂肪酸組成に影響を与える要因について、兵庫県立農林水産技術総合センター 岡章生氏の報告をもとに紹介します。

牛の品種、性、月齢による脂肪酸組成の違いについては、表1のとおりです。

表1 黒毛和種肥育素牛の脂肪酸組成に影響する要因

牛の品種	黒毛和種は他の品種に比べて不飽和脂肪酸の割合が高い。
性別	不飽和脂肪酸の割合：雌 > 去勢 > 雄
月齢	肥育期間が長くなると不飽和脂肪酸が増加。 ただし、生後30ヵ月以降は脂肪蓄積量があまり増加しないことから、不飽和脂肪酸の割合もほとんど変化しない。

次に、飼料による脂肪酸組成への影響ですが、注目すべきは、穀類の使い方です。肥育中後期の黒毛和種去勢牛を用いてトウモロコシの給与割合と脂肪酸組成を調べたところ、トウモロコシの給与割合を増やし、長期間継続給与した時に、不飽和脂肪酸の割合が高くなったと報告されています。肥育の仕上げ期に主に大麦を利用している本県では、飼料の配合割合を考えさせられる結果ですね。

また、生後14ヵ月の黒毛和種去勢牛を用いて、ビタミンAと脂肪酸組成の関係を調べた結果では、肥育期間中ビタミンAを高レベルで推移させた牛の方が低い牛よりも不飽和脂肪酸の割合が高くなっていました。つまり、ビタミンAは脂肪酸組成に影響を与えると考えられるわけです。黒毛和種では肥育の前半にビタミンAを制御する飼育技術が一般的ですから、ビタミンAをどの程度制御するのが適当なのか難しいところです。

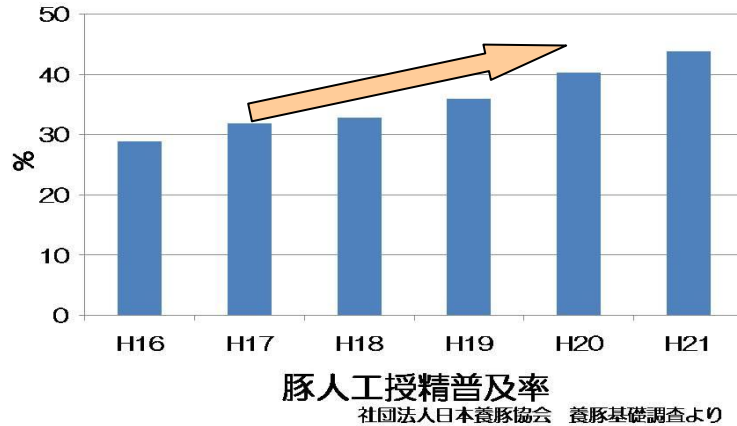
このように、牛肉のおいしさの追求は始まったばかりです。当场でも、県産牛肉のブランド力を高めるべく、牛肉のおいしさの研究を進めていきたいと思えます。

（肉牛研究室 櫻井 由美）

平成22年度 豚人工授精技術研修会の開催について

豚の人工授精普及率は、年々増加傾向にあります。

それでも、昨年度の普及率は43.7%で、牛の人工授精普及率（ほぼ100%）と比較するとまだまだ低い現状にあります。



今年の夏は猛暑の日が続きましたが、種雄豚は暑熱ストレスを受けると、精液の状態が悪くなります。このことは、自然交配では気づきにくく、農場の繁殖成績の悪化につながります。

人工授精を導入している場合、採取した精液の活力を検査し、授精に適した精液を用いることができるので、夏場の繁殖成績を改善する効果が期待できます。

そこで、当场では、多くの方に豚の人工授精を身近に感じてもらい、本技術の導入のきっかけとなるよう、豚の人工授精技術研修会を開催しています。

今年度は、以下の日程で研修会を行いますので、興味がある、導入を検討されている、新規就農者や指導者などの方々の受講をお待ちしております。また、全日程の参加は難しいが、一部研修会に参加したい方は畜産試験場までご連絡ください。



精液採取実習の様子

【平成22年度 豚人工授精技術研修会日程】

開催日時及び内容

講義：平成22年11月5日（金） 10:00～12:00

実習：平成22年11月8日（月）～12日（金） 13:15～15:15

研修場所：畜産試験場大会議室及び豚人工授精研修所

申込方法：受講申込書を農業振興事務所、畜産振興課または畜産試験場に提出してください。

（申込書は市役所、町役場にありますが、御不明の点は、畜産試験場にお問い合わせください。）

申込締切日：平成22年10月22日（金）

（中小家畜研究室 渡邊 哲夫）

国内のアニマルウェルフェア情勢について

近年、EUを中心にAnimal Welfare（家畜福祉）の意識が普及しつつあります。

EUは1700万ユーロの予算で「Welfare Quality プロジェクト」立ち上げ、畜産関係者及び消費者の家畜福祉に対する意識調査、生産現場での家畜福祉評価法の作成などについて調査・研究を行いました。

さらに、国際獣疫事務局（OIE）では、Animal Welfare に関するガイドラインの検討が始まっており、肉牛やブロイラーなど畜種ごとの飼養管理基準を検討しています。

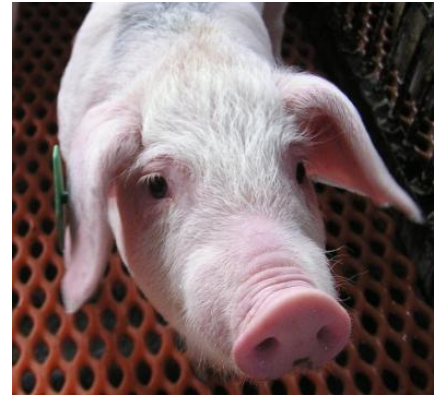
国内では、社団法人 畜産技術協会が事務局となり「アニマルウェルフェアに対応した飼養管理に関する検討会」が開かれ、すでに採卵鶏、豚、ブロイラー及び乳用牛の飼養管理指針が策定されています。今年度には、肉用牛及び馬の飼養管理指針が策定される予定となっています。

この飼養管理指針の一般原則の中には

「アニマルウェルフェアへの対応において、最も重視されるべきは、施設の構造や施設の状態ではなく日々の家畜の観察や記録、家畜の丁寧な取扱い、良質な飼料の給与等の適正な飼養管理により、家畜が健康であること」

と明記されており、今回の指針では現在行われている飼養管理の中でアニマルウェルフェアに配慮しているという内容になっています。

また、国内生産現場でも、埼玉県にある農場管理獣医師協会で作成した家畜飼育管理マニュアルへの動物愛護と福祉項目の記載や、秋田県 ポークランドグループのアニマルウェルフェアクオリティ生産確立への取り組みなどアニマルウェルフェアの意識が浸透してきています。



（中小家畜研究室 渡邊 哲夫）



畜産試験場だより No.53
平成 22 年 9 月 30 日 発行

栃木県畜産試験場

〒321-3303 芳賀郡芳賀町稲毛田 1917

TEL:028-677-0301 e-mail:chikusan-s@pref.tochigi.lg.jp

HP : <http://www.pref.tochigi.lg.jp/system/desaki/desaki/tikusi.html>

○農作業機械の操作には細心の注意を払いましょう。